

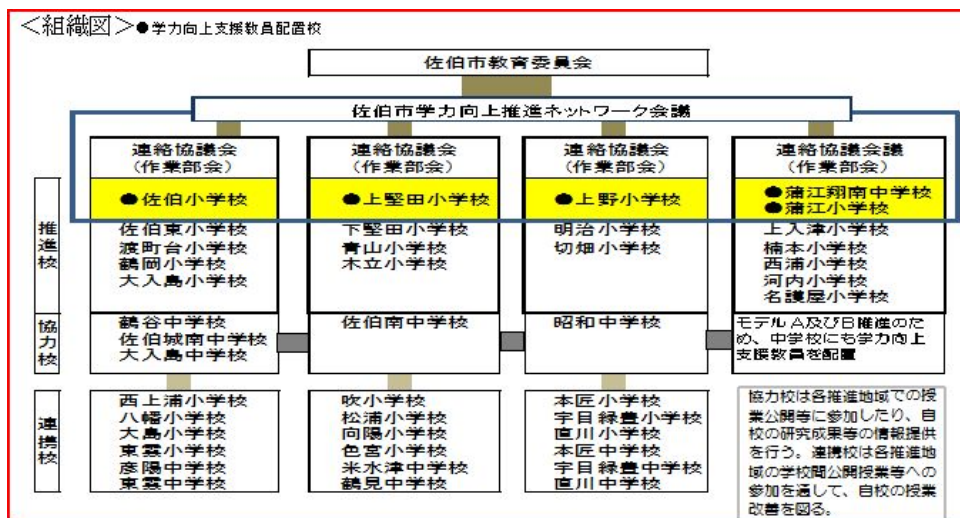
平成23年度佐伯市学力向上実践研究事業報告書(大分県市町村学力向上戦略支援事業の活用)

佐伯市では、H23年度に大分県の市町村学力向上戦略支援事業により学力向上支援教員（小4名、中1名）の配置を受け、4つの地域を研究推進地域とし、学力向上支援教員が複数の学校の研究主任と連携しながら学力向上に取り組む実践的研究（佐伯市学力向上実践研究事業）を進めてきました。

学力向上支援教員は自らT1やT2として授業改善の取組を公開し、「わかる授業」づくりをリードするだけでなく、各地域の推進校を巡回し、授業を参観するとともに、研究主任と協議したり、校内研修に参加したりと地域における学力向上アドバイザーとして動いてきました。

また、各推進地域では、「わかる授業（一時間完結型授業）」の構築に向け、校内での授業の見合いを行うだけでなく、学校間でも授業公開を行い、互いの授業を見合いながら「わかる授業」づくりを進めたり、児童生徒の学びを伸ばすための取組をしてきました。その様子等を報告します。

事業概要



○4つの推進地域を設定

- ・佐伯小ブロック、上堅田小ブロック、上野小ブロック(各1名配置)
- ・蒲江小+蒲江翔南中学校ブロック(小中各1名配置)
- ・学力向上支援教員がブロック内の学校間を結び、複数の学校が協力して、学力向上に係る取組を推進 → 面としての広がり

○学力向上支援教員の活動例

- ・配置校や推進校において、「わかる授業」づくり等に関する情報発信
- ・各推進校を訪問し、取組の方向性や実践について協議や助言
- ・各ブロックでの研究主任等作業部会を開催し、協議や助言

授業公開をする学力向上支援教員(H23.10.21)



★蒲江翔南中



★佐伯小

取組実績

- 5人の学力向上支援教員による推進校訪問
4月～2月 449回
- 4地域での学校間授業公開
6月～2月 117回 参加教員数延べ 670人以上
- 4地域での研究主任等協議や全体での連絡協議会
4月～3月 40回

★:学力向上支援教員配置校

自校の取組について説明する
学力向上支援教員(H23.6.2)

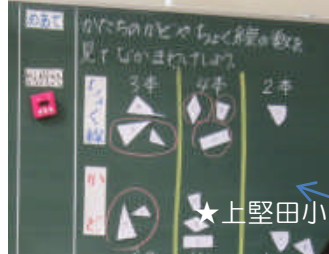
小学校での「わかる授業」のひろがり

子どもたちが意欲を持って参画できる授業の創造

学習環境の整備、学びの足跡

机上準備の指導

視点を示した「めあて」で
問題解決の見通し



○事前

児童生徒の課題分析、授業規律の確立等

○授業

課題の確認

自分の考えをもつ

考えを交流する

まとめる

〔練習問題〕
振り返り

=授業のねらいを明確にし、本時の課題を提示

=考える時間を確保し、課題に対する考えを持たせる

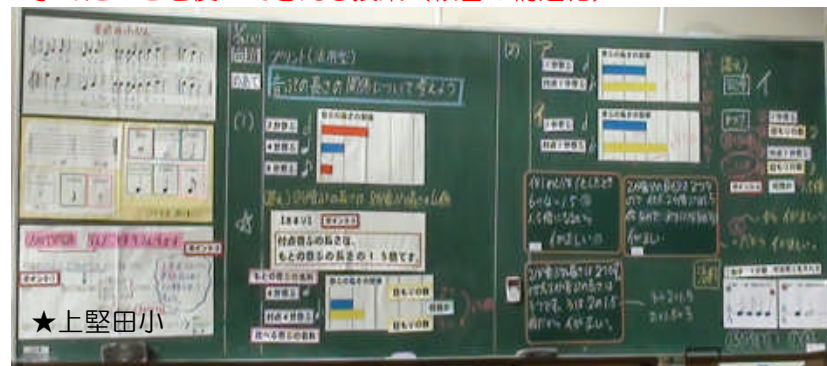
=各自の考えを交流し、考えを広め、深める

=発表を生かし、授業のポイントをまとめる

=この時間にわかったことを確認、評価

・ ※ノート指導 … 黒板との連動、授業の足跡を残す

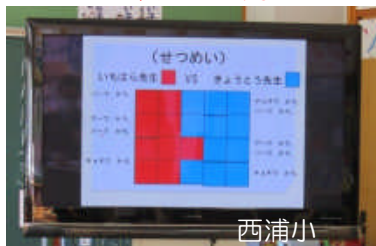
学んだことを使って考える授業（板書の構造化）



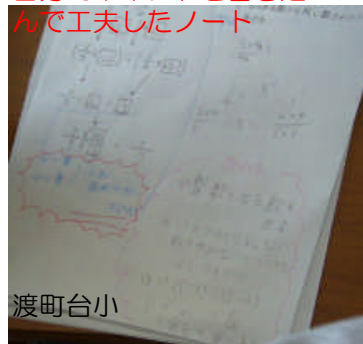
○事後

児童生徒の理解度を評価し、家庭学習や補充学習
等で定着を図る

ICT機器の活用



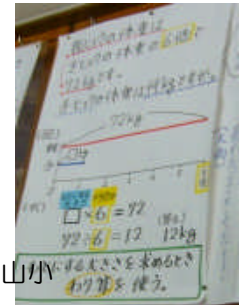
まとめとふりかえりをし、
自分でポイントを書き込
んで工夫したノート



★蒲江小



青山小



ヒントカードや具体物等も活用



考えを伝え合う児童



前の授業のノートを見返す児童

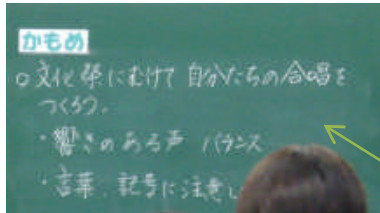


★：学力向上支援教員配置校

中学校での「わかる授業」の実践研究 (★蒲江翔南中)

子どもたちが意欲を持って参画できる授業の創造

何をするか、何に注意して進めるかを
明示し、見通しをもたせる工夫



○事前

児童生徒の課題分析、授業規律の確立等

○授業

課題の確認

自分の考えをもつ

考えを交流する

まとめる

〔練習問題〕
振り返り

=授業のねらいを明確にし、本時の課題を提示

=考える時間を確保し、課題に対する考えを持たせる

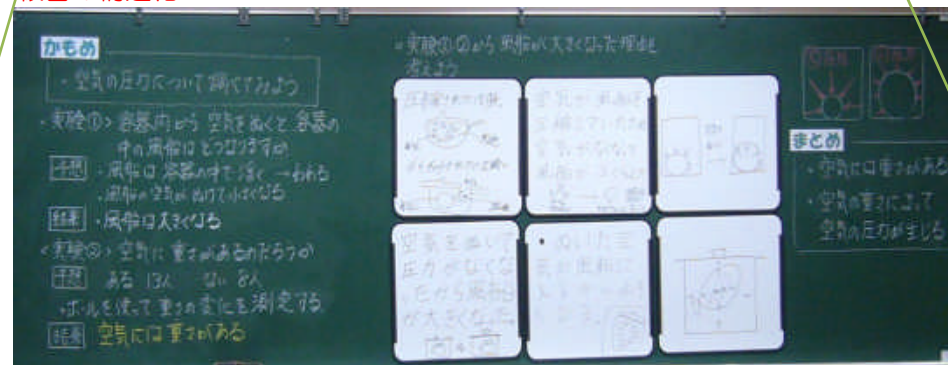
=各自の考えを交流し、考えを広め、深める

=発表を生かし、授業のポイントをまとめる

=この時間にわかったことを確認、評価

・ ※ノート指導 … 黒板との連動、授業の足跡を残す

板書の構造化



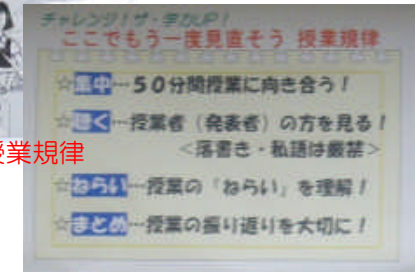
○事後

児童生徒の理解度を評価し、家庭学習や補充学習
等で定着を図る

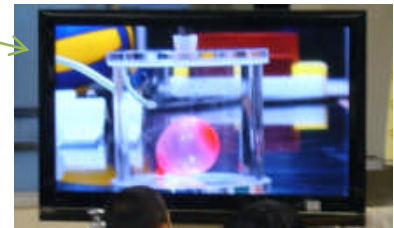
まとめが位置づいた黒板と
ノート



校内で統一した授業規律



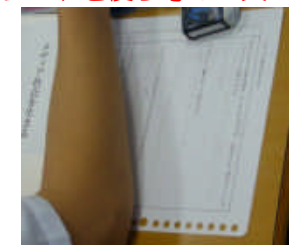
ICT機器の活用



協働して課題を解決する生徒



ワークシートを使う等の工夫



小学生の中学校体験授業



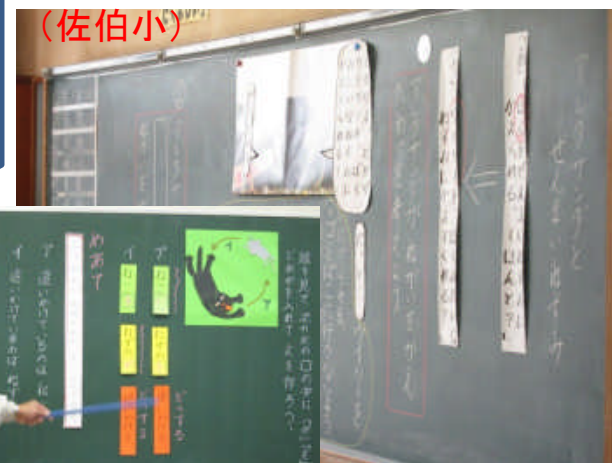
(蒲江ブロック)

学力向上支援教員と協力した様々な実践の広がり

ワークショップ型 研修(蒲江翔南中)



国語科での実践



(佐伯小)



(名護屋小)

理科での実践



(上入津小)

必要なものだけがおかれ
集中できる机の上



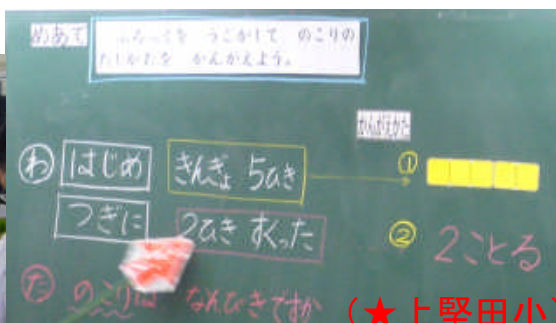
(楠本小)

階段や廊下の
学習コーナー



(★蒲江小)

電子機器の活用とチーム
ティーチングによる指導



(★上堅田小)

低学年からの丁寧な情報
整理の指導



保護者と連携した
家庭学習の指導 (★上野小)

平成23年度の取組のまとめ

○推進地域にみられる取組の成果

学校では

- 学力向上支援教員の巡回により、他校や先進校の取組、新しい研修の方法などを紹介してもらうことができ、実践に役立てることができた。
- ホワイトボードや電子黒板等の活用について実践的に見ることができ、様々な助言が得られた。
- 学力向上支援教員と同じ授業を見て協議する中で、自分とは異なる視点での注意やポイントをおさえたアドバイスをもらえ、日々の指導の見直しができた(研究主任のコメント)。
- 個に応じた指導や学習内容の定着の工夫について、他校の実践からよいところを取り入れることができた。
- 小・中学校の接続、協働について、より具体的に意識するようになった。

児童生徒は

- 算数の授業は大切だとする児童が低中高学年ともに90%を超えた。
- 算数の授業はよくわかりますかとの質問に肯定的な回答をした児童も低中高学年ともに増え、80%を超えた。
- 算数の授業の中で、思考の道筋がわかるように記録を残しているとした児童は低中高学年ともに85%前後となった。

○今後の課題、平成24年度に向けて

- ◆「問題」と「めあて」を提示し、視点や手立てを示すことで、児童が見通しをもって授業にのぞみ、自分の考えを説明することができており、思考力、判断力、表現力の基礎を培うことにつながっている。今後はさらに、一単位時間の中で「伝えあい」を取り入れ、考えを比較検討することや、単元構想の中で、考えを出し合い、練りあう場を設定すること等の取組を進め、思考力・判断力・表現力を磨いていくことが求められる。
- ◆授業者と児童生徒が、単位時間の中で、課題を明確にとらえ、見通しを共有し、学びを振り返る「わかる授業」づくりを、さまざまな教科で進めていくことが求められる。